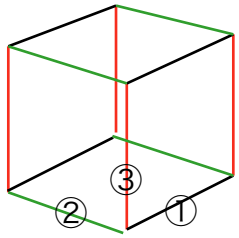
透視法まとめ

立体は縦（奥行き）と横（幅）と高さとを持っている
下の立方体を見ると、①②③3つの方向を表す4本ずつの線がある



①奥行き（「縦」黒い線）　②幅（「横」緑の線）　③高さ（赤い線）

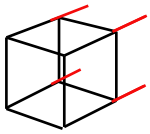
<透視図法>とはこれをアイレベル(目の高さ)「水（地）平線」を決め、「消失点」を想定して、この３種類の線に遠近をつけてゆく

消失点とは実際に自然界に点がある訳ではないが、「同じ大きさの物でも遠くのものは小さく見えて行き、点の様に見える」という事を想定して作って行く。以後VPで表す

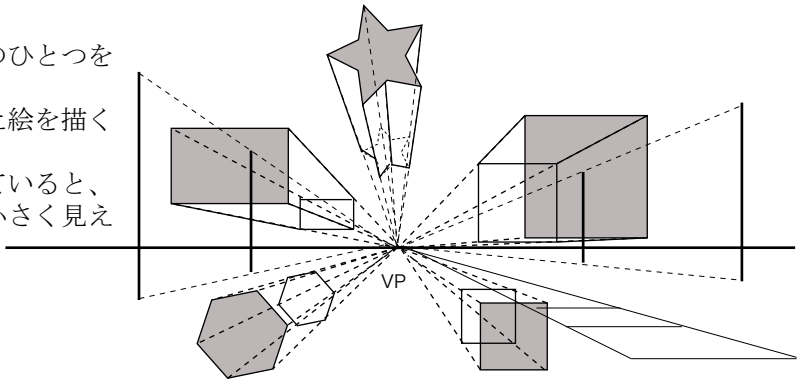
VPに結ぶ斜めの線は平行、言いかえれば同じ高さ同じ幅だということを表している

○１点透視図法

「「縦」「横」「高さ」のうちのひとつを１点の消失点に集める。
物体や空間をほぼ正面から捉えた絵を描くのに適している。
車の助手席に座って行く先を見ていると、道路や建物が向こうに行くほど小さく見えるだろう



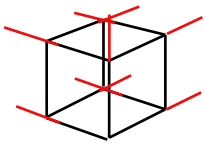
「奥行き」を１点に集めてみる



○２点透視図法

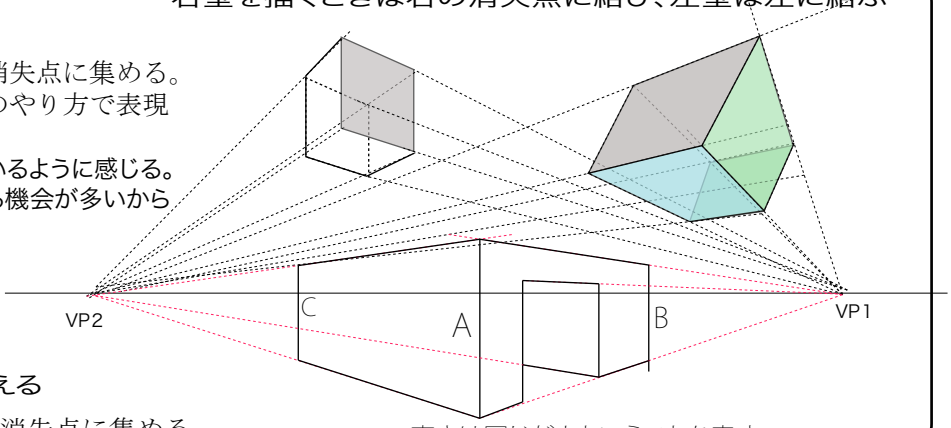
右壁を描くときは右の消失点に結び、左壁は左に結ぶ

「縦」「横」「高さ」のうちの２つを２点の消失点に集める。
空間の広がりのある絵を描く事が出来る。このやり方で表現される絵が多い。
物は普通は2点透視や3点透視のように目に映っているように感じる。これは普段、物を2つ以上の面が見える場所から見る機会が多いからです。



物を角から見ると２つ以上の面が見える

「縦（奥行き）」「横（幅）」を左右２点の消失点に集める

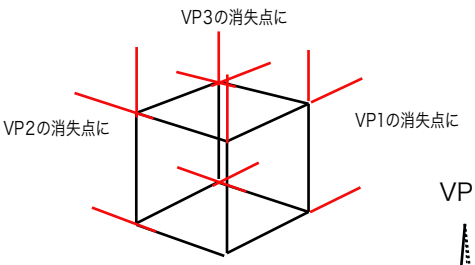


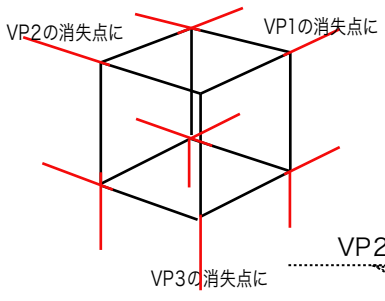
A=B=C　高さは同じだよということを表す

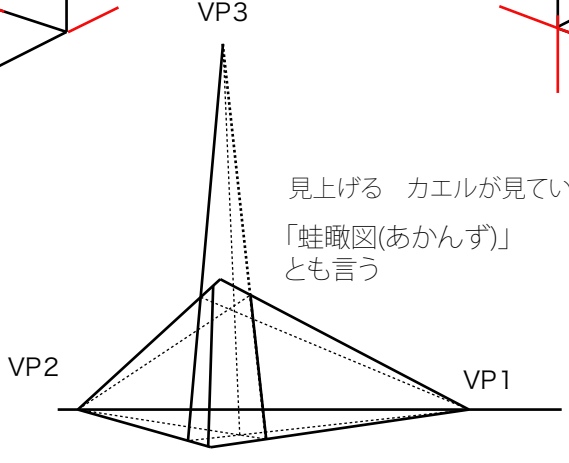
○３点透視図法

「縦」「横」「高さ」のすべてを３点の消失点に集める。
物体を見上げたり、見下ろしたりする絵が描け、絵に迫力を出す

奥行きよ小幅を左右の消失点へ、高さを上か下にとる

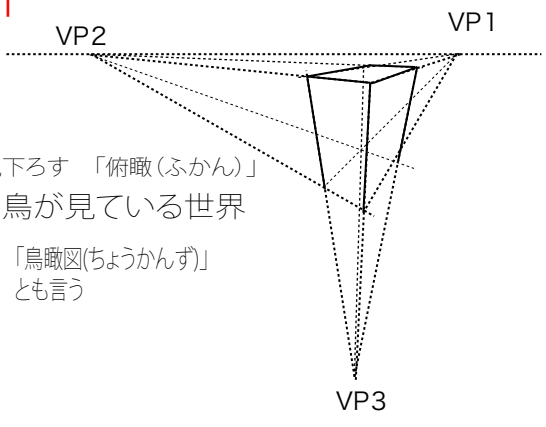






見上げる　カエルが見ている世界

「蛙瞰図(あかんず)」
とも言う



見下ろす　「俯瞰（ふかん）」
鳥が見ている世界

「鳥瞰図(ちょうかんず)」
とも言う